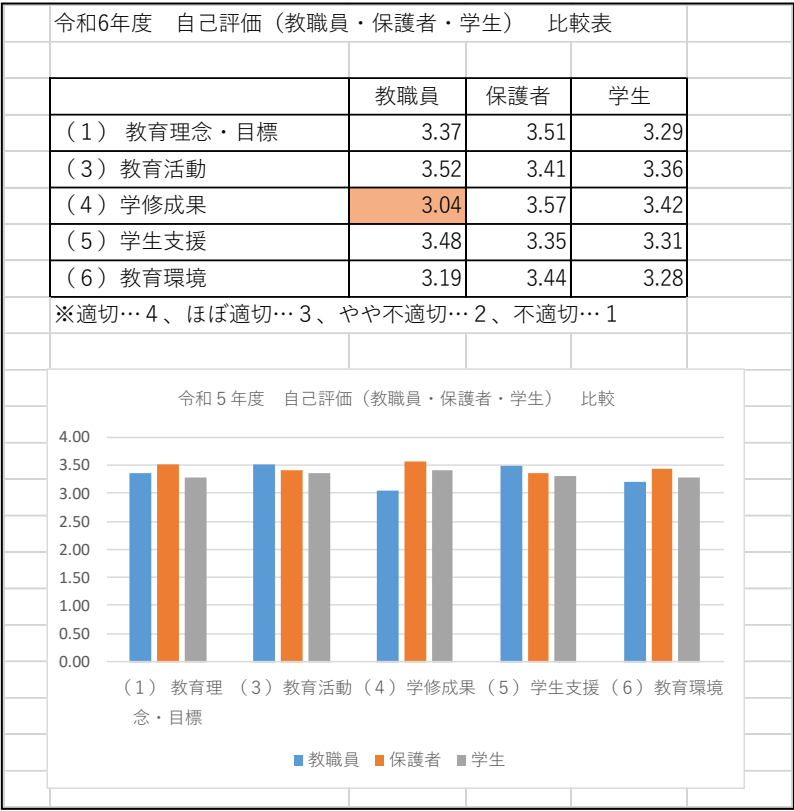


令和6年度 第一回学校関係者評価報告書

1. 令和6年度自己評価について

アンケート調査項目の中で、教職員、保護者及び学生の共通している領域を比較したグラフを以下に示す。選択（適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）の値をそのまま集計した結果であり、すべて「ほぼ適切」を上回っている。

教職員の学業成績の評価が3.04と他に比べて低くなっているが、退学者が3名と増加したことがこの評価になったと思われる。



2. 課題への対応

(1) アンケート調査の実施

- ・昨年度同様に、教職員に加え、学生とその保護者を対象に加えてアンケートを実施し、教育活動改善に向けた対応を図った。

(2) 財務基盤の中長期的な安定

2-1. 収益構造の多角化

目的：学費以外からの収益源を確保し、財務基盤の安定性を向上させる。

具体策：これまでの求職者支援訓練や離転職者支援訓練などの就職支援事業を継続し、さらに、通信制高等学校のサポート校を開設して学習・教育支援事業を展開して安定した収入源の確保を図る。

2-2. コスト削減と効率化

目的：財務負担を軽減し、中長期的な経済的持続可能性を高める。

具体策：電力や水道などの公共料金の管理、Microsoft365A1 を活用した授業運営の効率化、IT インフラのクラウド化などにより、ランニングコストの削減を目指す。

2-3. 学生数増加のための広報活動強化

目的：学生数を増加させ、学費収入の安定化を図る。

具体策：効果的な広報戦略を策定し、SNS やデジタルマーケティングを活用した学校の魅力を発信する。また、地域社会との連携を通じ、入学志願者の層を広げる活動を行い、入学率の向上を目指す。

3. 意見交換の要旨

✓ 課題への対応・改善について

委員から、学生アンケート等で明らかになった課題に対して、学校が迅速に対応し改善に努めている点が評価されました。一方で、改善内容の周知が学生全体に十分伝わっていないとの指摘もあり、今後是对應の「見える化」にも取り組む必要があるとの意見が出されました。

✓ 先生と学生の距離の近さ

教員と学生の関係性については、多くの委員から「距離が近く相談しやすい雰囲気がある」と高く評価されました。少人数制の利点が活かされており、学生の学びの動機づけにも良い影響を与えているとの声がありました。ただし、教員に過度な負担がかからないよう、バランスを保つことも大切だとの意見もありました。

✓ 評価結果のフィードバックについて

学生・教職員への評価結果のフィードバックが、まだ十分とはいえないとの指摘がありました。評価を改善に活かすには、結果を丁寧な共有し、具体的な改善策をセットで提示することが重要との認識が共有されました。次年度以降は、フィードバックの方法を工夫することが求められます。

✓ 広報活動について

学校の魅力を伝える広報活動については、SNS 等を活用した発信が強化されている一方で、地域社会や保護者向けの情報提供がやや不足しているという意見があり

ました。今後は、ターゲットに応じた広報戦略の見直しや、在校生の声を取り入れたコンテンツの発信が期待されています。

以 上